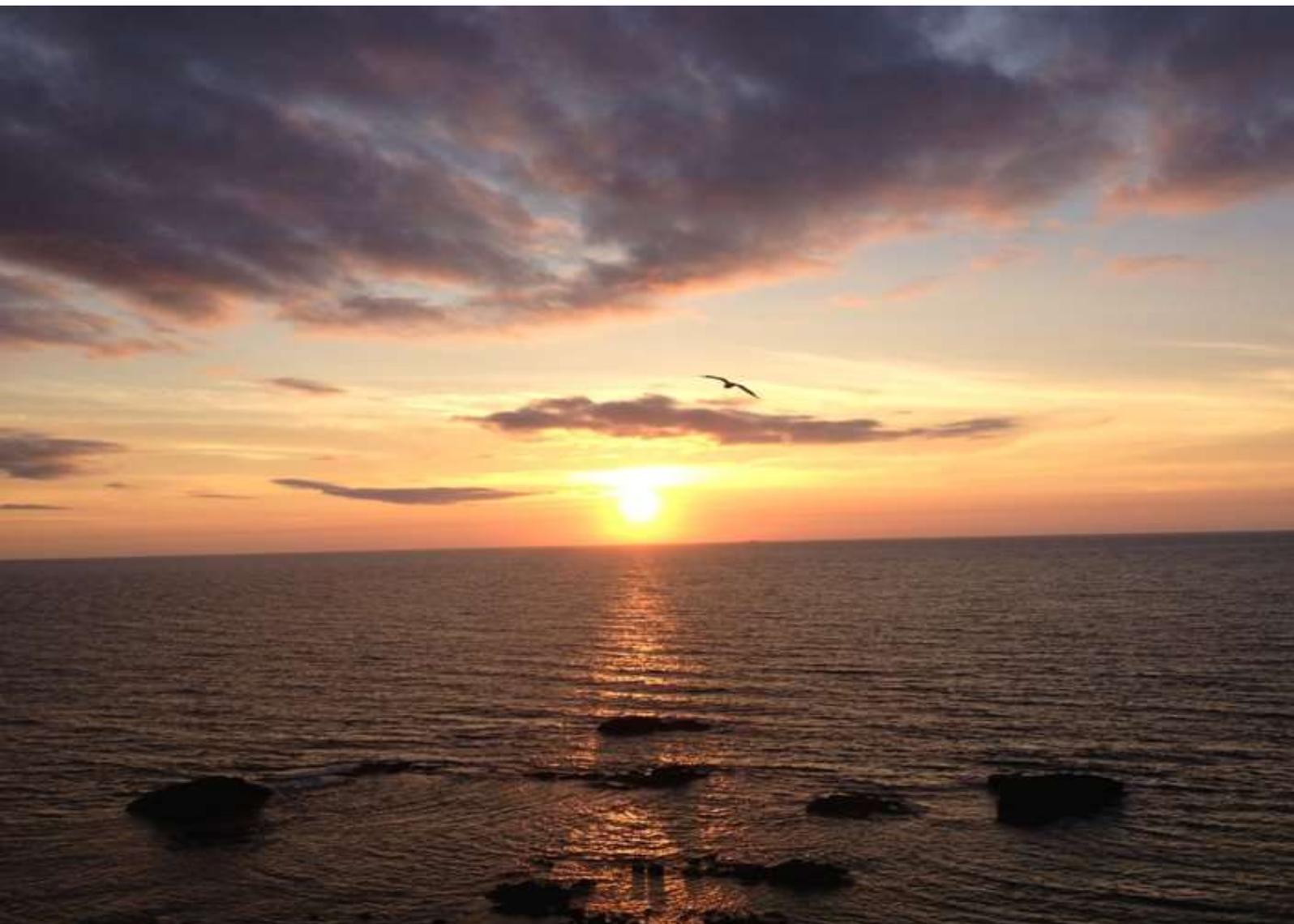




サンタ通信



黄金岬の夕日

住所

社会医療法人 孝仁会 留萌セントラルクリニック
〒077-0007 北海道留萌市栄町1丁目5番12号
☎ 0164-43-9500
fax 0164-43-5655
ホームページ <http://www.rumoicentral.xsrv.jp>



第2号 特集 ハンディキャップについて



第30回オリンピック競技大会ーロンドンオリンピック大会が2012年7月27日から8月12日まで盛大に開かれた事は、記憶に新しい事と思います。

日本代表の獲得したメダル数は、金メダル7個、銀メダル14個、銅メダル17個でした。

引き続き、2012年8月29日から9月9日まで第14回パラリンピック大会がロンドンで開かれました。

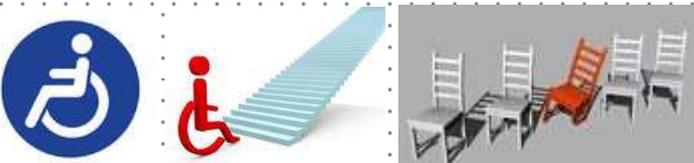
パラリンピックは1960年ローマ大会からスタートしました。ローマオリンピックと開催地は同じだったが、使用施設は異なっていました。

パラリンピックが同年に行われるオリンピックと同一の施設を使うようになるのは1988年のソウルパラリンピックからです。パラリンピックとは、身体障害や知的障害などの障害がある人が行う**障害者スポーツ**のオリンピックバージョンです。

既存のスポーツを障害者の要求に応じて修正したものが多い。「(障害者に)合わせたスポーツ」の意で**アダプテッド・スポーツ**(adapted sports)ともいいます。しかしながら、全部が健常者のスポーツの修正版ではなく、障害者のために考案された独自のスポーツもいくつか存在するようです。

ロンドンパラリンピックで日本代表の獲得したメダル数は、金メダル5個、銀メダル5個、銅メダル6個でした。

日本人の活躍が話題になり、障害者への社会の関心が一層広まっていく事と思います。



WHO(世界保健機構)は国際障害分類(1980年)において、障害の3つのレベル(機能障害→能力障害→社会的不利)の概念を提起しました。

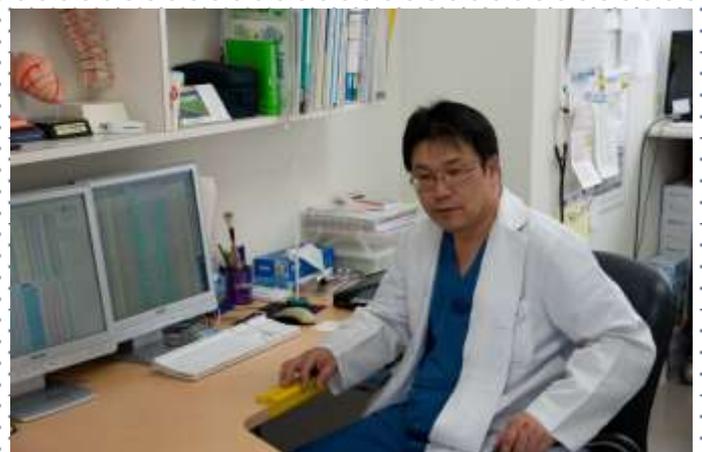
社会的不利(ハンディキャップ、handicap)とは、機能障害や能力低下(能力障害)の結果として、個人に生じる社会的な不利益のことである、例えば、障害を理由に就職や就学を拒否されたりする場合や、障害のある人にも利用できるような環境が整っていないために、特定の場所に入ることができなかつたりする場合その人は、機能障害、能力障害などに起因した社会的不利を被っていることとなります。

ただし、機能障害や能力障害とは区別され、環境や制度を整えば、機能障害、能力障害が重い人でも、社会的不利を軽減することは可能です。

脳卒中や外傷などで機能障害に陥った方には、ハンディキャップを軽減するために様々な環境や制度が整ってきています。しかし、残念ながら病気や事故に突然遭遇すると頭の中がパニックになり制度をうまく利用できなかったり、知らないままになる事が多々あります。

今回の留萌セントラルクリニック広報誌サンタでは、当院・当施設のスタッフが是非知っていて欲しい事や利用する事でハンディキャップの軽減の手助けになる制度、施設を紹介する事をメインテーマといたしました。少しでもお役に立てていただければ幸いです。

最後にハンディキャップを軽減する社会は、制度だけの問題ではなく社会を構成する皆さん一人一人が手を差し伸べる勇気と努力によって実現していけるものと付け加えさせて戴きます。



鈴木 進院長

ハンディキャップと生活支援

多くの場合、ハンディキャップとは「社会的不利」と訳されます。それは何らかの機能障害により、個々に合った特別な支援がなければたちまち社会生活を疎外されてしまうというマイナスイメージを伴います。

脳卒中を発症し様々な障害を負った方への支援は多岐に及び、退院後の生活で困難が発生した場合は主に介護保険のサービス利用を勧めています。ヘルパー、住宅改修、通所リハビリテーション、デイサービス、といったように介護保険のサービスにより解決できる問題が少なくありません。また身体障害者手帳は、取得すると以下の図に示すようなサービスを受けられます。詳しくは図の右側に示した担当窓口へお問い合わせ下さい。

	サービス	概要	窓口
税金関係	所得税・市道民税の控除	障害等級・所得により控除額決定	税務署 市役所税務課
	自動車税・自動車取得税の減免	障害者本人が運転したり、本人と生計を同じくする方が障害者の通院・通学等の為運転する場合の左記の実施	留萌支庁税務課
交通費割引・助成	JR運賃の割引	第1種・第2種身体障害者の運賃割引（50%割引）。*ただし第1種・第2種により条件が異なる	JR駅みどりの窓口 で手帳を提示して購入
	バス運賃割引	乗車または降車時に手帳を提示し、バス運賃50%割引	乗車券購入窓口、 運転手へ提示
	有料道路通行料金割引	身体障害者自身が運転する場合・第1種障害者の介護の為運転する場合、通行料金50%割引	市役所社会福祉課
	航空運賃の割引	身体障害者手帳を所持する12歳以上の方に対して国内線全線割引（各航空会社により割引率異なる）	各航空会社

私が常日頃有るべき姿として考えていることは、単に「社会的不利者を支援する」ではなく「その方が社会参加するための支援を実践する」ということです。障害の有る方をハンディキャップという言葉の影に隠し、支援をあてがうことは容易ですが、本当に大切なことはその方の今後の社会参加を周囲が支えることだと感じています。その為には制度利用の他に、家族や親戚、または近所の方などの協力が必要不可欠です。それは公的なサービスだけでは補いきれない問題を解決する事が出来る唯一の方法だからです。

個々の状況に応じた解決策を共に考えていきましょう。いかなる相談も無料、秘密は厳守いたします。私は当クリニック事務室に在籍しておりますので、生活に関するお悩みがございましたらどうぞお気軽に御相談下さい。



ハンディキャップ ～理学療法士の観点から～

ハンディキャップの語源は

[スポーツ](#)や[ゲーム](#)等において競技者間の実力差が大きい場合に、その差を調整するために使われたことから始まるようです。リハビリテーションに携わる私にとって、ハンディキャップとは、脳卒中や外傷等により身体機能障害に陥った方々に対し、人間として、健常者も障害者も対等に人生を生きられるように関わっていくことと考えます。



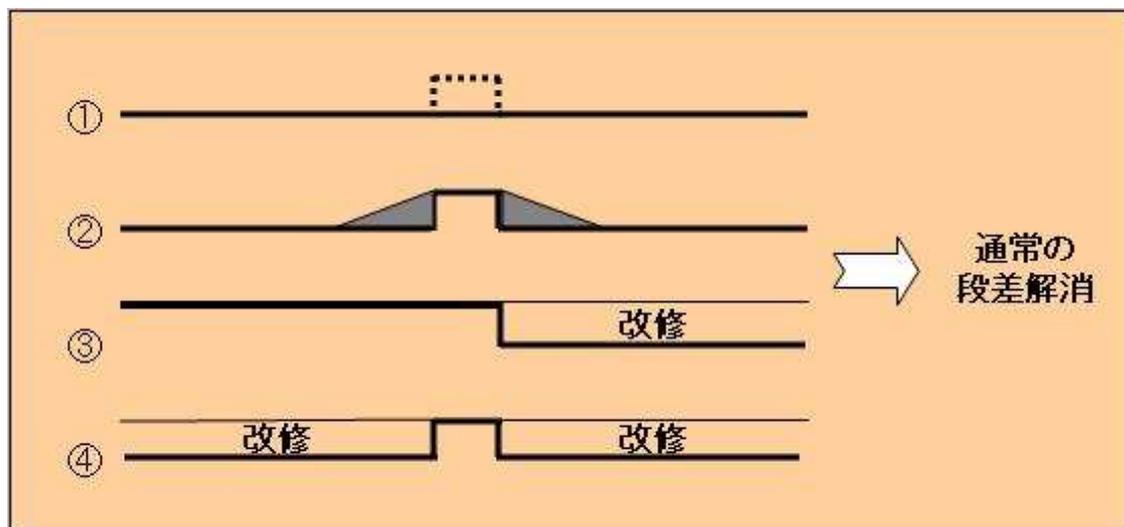
理学療法士 成田 志乃

何らかの原因により身体機能障害を患った方々は、自宅内の生活をはじめ屋外移動で『段差』を越える事に苦難することが多いと思います。敷居に足先が引っ掛かりつまずく、段差を踏み外し転倒する…等、理学療法士が患者様と関わる中でよく耳にします。そこで、【住宅改修】をテーマに段差解消について紹介していこうと思います。

日本は家の中で靴を脱ぐ習慣があり、玄関には上がり框があります。

また最近では生活が欧米化している傾向もありますが、床での生活・畳み(和室)が存在している自宅が多いと思います。

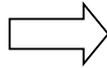
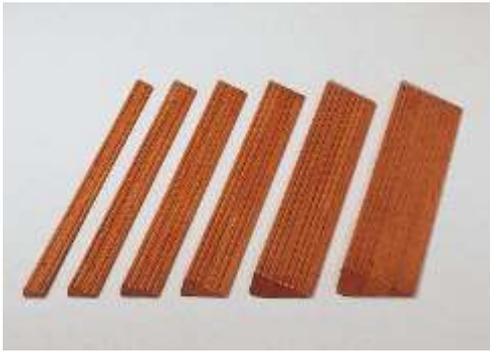
まずは一般的な段差解消についてみてみましょう。



①は敷居の段差を撤去する方法で、撤去することにより床がフラットになります

②は住宅の構造上、撤去できない段差、撤去する程でもない段差だが足が引っかかる等の場合です。この場合に段差解消スロープを設置します。50mm 程度までの段差に使用がすすめられます。

段差解消スロープ

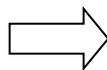


設置後

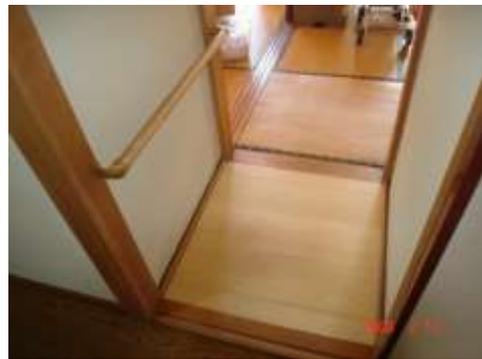


③ ④ は段差に合わせ床全体のかさ上げ工事です。工事は比較的大掛かりなものになります。廊下～部屋、浴室の工事が多く、段差解消により特に車椅子の移動がスムーズになります。

改修前



改修後



このような段差解消など住宅改修は、介護保険の利用で20万円を上限に費用の9割が改修費として支給されます(1割は自己負担)。「改修したいけど、お金が・・・」と困っている方は、是非この制度を利用して住み良い環境に整えてみてはいかがでしょうか。

留萌市の手続きの流れは以下のようになっていますが、詳細については市区町村や担当ケアマネージャー等にご相談ください。



留萌市



リハビリ

当院リハビリテーション科には、理学療法士2名・作業療法士2名・言語聴覚士1名の計5名のスタッフがおります。

当院は、脳神経外科の患者様のみではなく腰痛や頸部痛のある方、動脈硬化により血管が詰まってしまい長い距離を歩くことが困難になってしまった方など、様々な原因により日常生活を送ることが困難となってしまった方を対象に治療を行っています。

地域に密着した医療の提供を行い、留萌の方々に一日一日を元気で楽しく過ごしてもらえよう貢献していきたいと、スタッフ一同日々心掛けながら治療に当たっています。

(記 成田)



通所リハビリ

介護保険における通所リハビリテーションと介護予防通所リハビリテーションを実施しています。年齢を重ねても自立した日常生活を送る事を目標に、マシントレーニングを中心とし、運動・生活機能が低下せず、維持していける様にリハビリテーションを提供しています。

各種専門職が評価・ケアプランに基づき、利用者様と共に具体的な生活目標を設定し、目標達成のために様々なリハビリプログラムに取り組んでいただいております。『近所まで歩いていけるようになりたい』『物忘れが多くならないよう、生活のリズムを整えていきたい』『気軽にお話しができる交流の場がほしい』など、加齢によって起こる体の動きの低下や活動範囲の狭小化を未然に防ぐためにも、リハビリに関する相談がありましたら、いつでもご連絡・ご相談下さい。

(記 渡辺)



病棟

当病棟は現在、13名の看護師と7人の介護職員が、『大切な人が病気になったとき、安心してかかれ、嫌な思いをさせない』のクリニック理念を念頭に日々患者様と関わっています。朝のカンファレンスでは患者様にとって必要なことは何かなど、スタッフ皆で真剣に悩み考えることから1日をスタートします。時には忙しく髪を振り乱すこともありながら、患者様の「ありがとう」の感謝の言葉や笑顔に癒されながら、平均年齢32歳という若さ全開!?で頑張っています。

入院生活は患者様とご家族の精神的、身体的不安や負担はとても大きいものです。少しでもそれらが軽減できるよう、医療相談やリハビリ等の他部門と連携を取り合い、入院生活を支援させていただきます。 (記 齊藤 千夏)



グループホーム ノエル

私たちはグループホーム(認知症対応型共同生活介護)ノエルで勤務しております。ノエルはセントラルクリニック裏に隣接する「ノエル棟2F」にあり、平成21年11月に開設されました。各居室にはトイレ、洗面所を備え完全個室で、キッチン・共同生活室を備えた1ユニットの施設となっております。当施設は家庭的な雰囲気の中で、11月現在において男性1名、女性8名の入居者様(定員9名)が生活され、管理者兼計画作成担当者1名、介護職員8名、パート職員1名の計10名が在籍しております。

また、11月より、共同型認知症対応型通所介護を1日3名の定員にて、食事・入浴及び日常生活上のお世話や機能訓練などを提供しており、私たちは、地域に根差した質の高いケアが提供出来るよう日々励んでいます。 (記 高畑)



居宅介護支援事業所 サンタ

私たちの事業所サンタは、男性職員1名、女性職員3名の合計4名で業務を行っています。よく、「どんな仕事？」と聞かれますが、その時には「安心して自宅生活を送ることができるようお手伝いさせていただく仕事です。」と答えています。利用者様のご家庭を訪問するのが主な業務なので、「連絡はどうするの？」というご質問もありますが、連絡がいつでも取れるように職員全員が携帯を常備していますのでご安心ください。

北は小平、南は増毛と毎日のように自動車(自転車)を運転しています。見かけたらいつでも声をかけてください。利用者様やご家族の方がいつも笑顔で過ごせることを目標に今後も勤めていきます。 (記 小野寺)

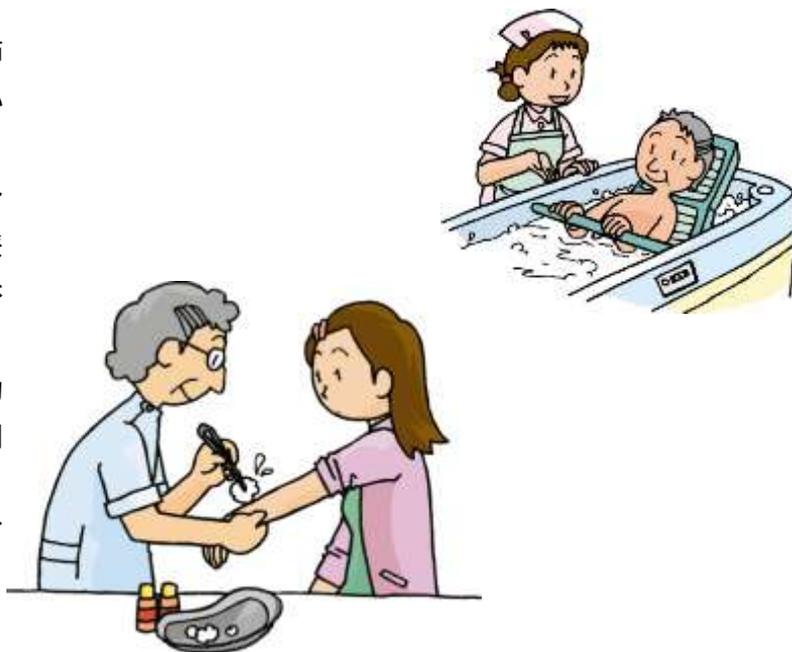


訪問看護ステーション・サンタ

私たち訪問看護ステーション・サンタは看護師2名、准看護師2名の計4名のスタッフで訪問しています。

高齢社会を迎え、介護問題がとり上げられる昨今ですが、私たちスタッフは“住み慣れた自宅での療養生活を一人一人の身になって、それぞれにふさわしい看護・介護を提供し『笑顔のある家庭』を目指します”をモットーに、日々知識・技術の向上に励み、利用者様・ご家族様に満足いただけるよう訪問看護をさせていただいています。

分からないことがありましたら、お気軽にご相談下さい。
(記 多屋 俊二)



栄養科



栄養科では、入院中の患者様の栄養状態を把握していく「栄養管理」と、その状態にあったお食事の提供をする「給食管理」のサポートをさせていただいています。

入院食の提供は衛生面を徹底し、安心して安全なお食事の提供を心がけています。食欲がない方や行事食などの時は、訪問を行い、患者個々の食事の管理を実施しています。糖尿病、脂質異常症、高血圧など患者様一人一人に合わせた栄養指導も行っています。すべてを変えるのではなく、出来る事から一緒に始める栄養指導を心がけています。

又、当院では摂食嚥下が困難な患者様のための食事も取り組んでいます。困っていることがあれば小さな事でも良いので相談下さい。
(記 坂本)

託児所

現在託児所には、10ヶ月～3才のお子さんを、8名お預かりしております。保育士2名、保育助手1名(計3名)の職員で業務を携わっております。

天気の良い日は、戸外遊びや、散歩等で体を動かし、元気に楽しく遊んでおります。日々成長するお子さん達のために、安心して過ごせる場所を提供しております。様々な年齢のお子さんがあるので、時にはケンカや物の取り合いをする場面もありますが、危険がない限り見守り、子供同士のやりとり、関わりを通しての体験を大切にしています。

お母さんが安心して大切なお子さんを預けられる託児所になれるよう心がけています。
(記 浜本)



介助講習会開催



平成24年9月29日、当クリニックノエル棟1階にて、『動作介助の方法について～寝返り・起き上がり・移乗～』の実技講習会を開催致しました。羽幌～増毛、7事業所・約20名と、留萌管内の医療及び介護事業所で働く方にお集まり頂き、終始和やかに行われました。まず脳卒中について高次脳機能障害についての講義を行い、病気からくる症状等について確認をしました。実技講習では寝返り・起き上がり・移乗について、基本的な方法や変法を指導し、なかなか目にしない介助方法指導では会場から驚きの声などもあがってきました。今後は医療・介護に従事される方だけでなく、ご家族の介護をされておられる一般の方々を対象とした講習会も行えるようにしていきたいと考えております。
(記 向井)

10月13日2年ぶりに当院にて『第4回留萌栄養・摂食嚥下セミナー』が開催され、天塩や滝川といった遠方の施設の方や、看護師・栄養士・ケアマネージャーといった多職種方にご参加いただきました。今回、特別講演として、栗山赤十字病院の管理栄養士 真井 睦子先生に「地域における栄養管理チームの推進」についてご講演いただきました。また、当院の鈴木進院長よりビデオ映像を用いながらの「嚥下障害を起こす脳神経疾患」の講演や、言語聴覚士による実演を交えた「口腔ケアの重要性について」の講演もありました。
(記 工藤)

第4回留萌栄養・摂食嚥下セミナー



生理検査室



増設の紹介



サンタ託児所



ゆったりとしたスペースで家庭的な雰囲気、毎日かわいい声が響いています



検査室はとても広く個別になっていて安心です！

会議室



検討事項はこの場所で行います



留萌セントラルクリニック

〒077-0007

北海道留萌市栄町1丁目5番12号

☎ 0164-43-9500

fax 0164-43-5655

通所リハビリステーション

留萌市栄町1丁目5番26号

☎ 0164-43-9555

fax 0164-43-4777

居宅介護支援事業所 サンタ

留萌市栄町1丁目5番26号

☎ 0164-43-9777

fax 0164-43-4777

訪問看護ステーション サンタ

留萌市栄町1丁目5番12号

☎ 0164-43-9111

fax 0164-43-4888

グループホーム ノエル

留萌市栄町1丁目5番26号

☎ 0164-43-9577

fax 0164-43-9588

【外来の御案内】

医師名	診療科	受付時間	月	火	水	木	金	土
院長 鈴木 進	脳神経外科	午前① 8:00~11:30	○	○	○	○	○	△
		午後② 16:00~18:00	○	手術	手術	休診	○	休診
坂井 智子	循環器科	午前① 8:00~11:30	○	○	○	休診	休診	休診
		午後① 13:30~15:30	○	○	休診	休診	○	休診
鹿島 由史	循環器科	午前② 8:00~13:00	休診	休診	休診	○	休診	休診

* 受付時間以外の緊急受診の際には事前にご連絡下さい。

○土曜の脳神経外科は出張医の場合があります

○脳神経外科の診察は緊急手術等にて休診になる場合があります。

○診療時間 午前① 8:30~13:30 午前② 10:00~14:00

午後② 14:00~16:00 午後② 16:30~18:30

○休診日 日曜・祝日・年末年始(12月30日~1月3日)



募集

- * 医師 * 看護師・准看護師 * 理学療法士 * 作業療法士
- * 言語聴覚士 * 放射線技師 * 臨床検査技師 * 臨床工学技士
- ・社会福祉士・介護支援専門員・介護福祉士・保育士・ヘルパー

*** 印 奨学金制度あり**

● 詳細は 事務 村井まで

編集後記

第2号広報誌「サンタ通信」では、“ハンディキャップ”をテーマに編集しました。難しいテーマに委員は悩みながら苦しみながらも、全員で完成させた広報になっております。

接遇・ボランティア委員会 広報担当部

